

シラバス集

小山歯科衛生士専門学校

歯科衛生学科 2 年

2025 年度

シラバスの見方

授業科目名	①		実務経験講師	③
担当教員名	②		実務経験	④
開講年度	⑤ 年度	学 期	⑦	
年 次	⑥ 年次	授業回数	⑧ 回	
単 位 数	単位	単位時間数	時間	
授業科目の概要	⑨			
授業科目の到達目標	⑩			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1			
2			
3			
4			
5			
6	⑪		
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用テキスト	⑫
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	
その他 受講生への要望等	

① 授業科目名

② 担当教員名

担当する主な講師の氏名です。氏名の前の番号は「実務経験（④）」に対応しています。

③ 実務経験講師

講師に担当する科目に関係する実務経験がある場合、「○」がついています。

実務経験とは・・・資格をもっているだけではなく、実際の施設等で資格を活かして働いた経験があるということ。

※一部を除き、違う学校で同様の科目を教えている等の教員経験は実務経験に含まれません。

④実務経験

担当講師の実務経験内容を簡単に記してあります。

⑤開講年度

⑥年次

授業を受ける学年です。

⑦学期

前期・・・4月～9月

後期・・・10月～3月

通年・・・1年間を通して、もしくは前期～後期にかかるどこかの期間で

⑧授業回数

⑨授業科目の概要

授業内容の大まかな説明です。

⑩授業科目の到達目標

授業が修了した時に到達すべき学修の目標です。

⑪授業スケジュールと内容

内容・・・1回の授業がどのような内容で構成されているか

授業方法・・・講義、演習、実習など

課題/小テスト・・・その授業の回に課題や小テストが課されている場合は記載されます。予習の内容が書かれている場合もあります。

⑫使用テキスト

授業で使用するテキストの情報です。プリント等オリジナル教材を使用する場合もあります。

シラバスの使い方

シラバス（授業計画書）は、各授業科目の概要のことです。

あらかじめ学生の皆さんに授業の進め方、学習内容、学習のねらいや評価方法を提示することによって、授業の流れをよく理解してもらい、より計画的に、主体的に、効果的に学習できることを目的に作成したものです。

シラバスを読めば、科目担当教員が皆さんにどのようなことを修得してほしいのか、また、何をどこまで、どのような方法で授業するのかを事前に知ることができます。専門学校での授業は、予習➡授業➡復習のサイクルを確立することが基本であり、最も大切です。シラバスを有効に活用して、自分に合った学習のパターンや方法を見つけ、学習に取り組んでください。

【授業を受ける前に】

1. 科目の到達目標には、その科目を勉強することによって皆さんに身につけてほしい目標が記載されています。この科目で身につけるべきことは何かを確認しましょう。
2. 授業の概要・内容・進め方を確認し、自分が何を学ぶのかイメージした上で、計画を立てて学習に臨みましょう。
3. 各回のキーワードはその授業で覚えてほしい重要なもの（将来的には国家試験にも関連する事柄も含む）として示してあります。各回の授業で自分が理解できたかどうかを振り返る上でのポイントとなります。
4. 使用テキスト・参考書については何を使用するのか事前に確認し、準備しましょう。
5. 「この科目の基礎となる科目」は、この科目を学ぶ上でベースとなる科目です。また、「この科目を基礎とした科目」はこの科目で学んだことを用いて発展させることを目指す科目です。科目同士のつながりを意識しながら、効果的に学びましょう。
6. 「成績評価の方法」にはこの科目の評価に用いる試験や課題などの情報を示してあります。課題レポート・出席状況・小テストなども含まれる科目がありますので、よく確認しましょう。
7. 提出物のある科目については、各学科のルールを確認の上、締め切りを守りましょう。専門職を目指す皆さんには、時間管理や、ルールを守ることも基本的な力として身につけてほしいと考えています。

シラバスの大まかな使い方は以上ですが、わからないことがあれば、遠慮なく教員に聞いてください。

平成31年度入学生から、下記のカリキュラムを適用する。

歯科衛生学科 授業科目一覧

区分	教育内容	授業科目名	指定規則の単位数	授業形態	学 則		1年次				2年次				3年次				
					単位数	時間数	前期		後期	時間数	前期		後期	時間数	前期		後期	時間数	
							単位数	時間数			単位数	時間数			単位数	時間数			単位数
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活	生物学	10	講義	1	15	1	15											
		総合基礎		講義	2	30	2	30											
		統計学		講義	1	15									1	15			
		歯科医療接遇		講義	2	30					2	30							
		情報科学		演習	2	30	1	15	1	15									
		コミュニケーション学		演習	2	30	1	15	1	15									
	基礎分野・小計		10		10	150	5	75	2	30	2	30	0	0	0	0	1	15	
専門基礎分野	人体(歯・口腔を除く。)の構造と機能	解剖学	4	講義	1	15	1	15											
		生理学		講義	1	15			1	15									
		生化学		講義	1	15			1	15									
		栄養学		講義	1	15					1	15							
	歯・口腔の構造と機能	組織発生学	5	講義	1	15	1	15											
		口腔解剖学Ⅰ		講義	2	30	2	30											
		口腔解剖学Ⅱ		演習	1	15			1	15									
		口腔生理学		講義	1	15			1	15									
	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	6	講義	1	15	1	15											
		口腔病理学		講義	1	15									1	15			
		薬理学		講義	2	30	2	30											
		微生物学		講義	2	30			2	30									
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	衛生行政・福祉論	7	講義	2	30										2	30		
		衛生学総論		講義	1	15	1	15											
		口腔衛生学		講義	2	30			2	30									
		公衆衛生学		講義	2	30			2	30									
	専門基礎分野・小計		22		22	330	8	120	10	150	1	15	0	0	3	45	0	0	
専門分野	臨床歯科学	歯科衛生士概論	2	講義	2	30	2	30											
		歯科保存学	8	講義	1	15					1	15							
		歯周療法学		講義	1	15					1	15							
		歯科補綴学		講義	1	15					1	15							
		口腔外科学・麻酔学		講義	1	15					1	15							
		小児歯科学		講義	1	15					1	15							
		歯科放射線学		演習	1	15					1	15							
		歯科矯正学		講義	1	15					1	15							
		障害者・高齢者歯科学		講義	1	15					1	15							
	歯科予防処置論	予防システム論	8	講義	1	15	1	15											
		歯周病予防法Ⅰ		実習	2	60	1	30	1	30									
		歯周病予防法Ⅱ		実習	4	120					2	60	2	60					
		う蝕予防法Ⅰ		講義	1	30	1	30											
		う蝕予防法Ⅱ		実習	1	30					1	30							
	歯科保健指導論	保健指導論Ⅰ	7	実習	4	120	2	60	2	60									
		保健指導論Ⅱ		実習	4	120					2	60	2	60					
	歯科診療補助論	歯科診療補助法Ⅰ	9	実習	2	60	1	30	1	30									
		歯科診療補助法Ⅱ		実習	4	120					2	60	2	60					
		業務管理		講義	1	15							1	15					
		医療安全		演習	2	30									2	30			
	臨地実習(臨床実習を含む。)	実習指導Ⅰ	20	演習	1	30			1	30									
		実習指導Ⅱ		演習	2	45					1	15	1	30					
		実習指導Ⅲ		演習	3	90									2	60	1	30	
		臨地・臨床実習Ⅰ		実習	1	45			1	45									
		臨地・臨床実習Ⅱ		実習	5	225							5	225					
		臨地・臨床実習Ⅲ-Ⅰ		実習	5	225									5	225			
		臨地・臨床実習Ⅲ-Ⅱ		実習	5	225											5	225	
	専門分野・小計		54		58	1755	8	195	6	195	16	345	13	450	9	315	6	255	
選択必修分野	医学基礎	7	講義	1	15										1	15			
	知識の統合		講義	3	90										1	30	2	60	
	総合歯科学		講義	3	90												3	90	
	特別活動Ⅰ		演習	2	45	1	15	1	30										
	特別活動Ⅱ		演習	1	15					1	15								
選択必修分野・小計		7		10	255	1	15	1	30	1	15	0	0	2	45	5	150		
合 計		93		100	2490	22	405	19	405	20	405	13	450	14	405	12	420		

※ 講義及び演習科目は15～30時間、実習科目は30時間、臨地実習及び臨床実習は45時間の授業時間をもって1単位とする。

授業科目名	歯科医療接遇		実務経験講師	○
担当教員名	見目 仁美		実務経験	歯科衛生士
開講年度	2025 年度	学 期	前期	
年 次	2 年次	授業回数	15 回	
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	患者は医療の質だけでなく、サービスの質や医療スタッフの態度を含め、満足感を得ます。医療現場でも患者満足という言葉が一般的に使われるようになってきました。常識と、マナーとコミュニケーション能力を兼ね備えた魅力的な医療人を目指すために必要なことを学ぶ科目です。			
授業科目の到達目標	1. 医療従事者としての心構えを持つ 2. インフォームドコンセントを説明できる 3. 敬語を正しく使い分ける 4. 正しいお辞儀、挨拶が出来る 5. 正しい言葉遣いで電話対応が出来る 6. 医療人として相応しい清潔感のあるメイク、身だしなみが出来る 7. 癒しと思いやりの心を持って実践できる 8. 季節に合った環境配備ができる			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	接遇とは何か 医療接遇と接客との違いと必要性 医療従事者としての心構え	講義、演習 PP	
2	医療の質、医療従事者の質 歯科医療はチームワーク・多職種について	講義、演習 PP	振り返り確認
3	一般マナー、社会人としてのマナー 仕事に臨む基本姿勢、身だしなみと言葉遣い	講義、演習 PP	振り返り確認
4	パソコンでの名刺作成	講義、演習 PP	振り返り確認
5	お辞儀と挨拶 名刺交換	講義、演習 PP	振り返り確認
6	リコール手紙の書き方	講義、演習 PP	振り返り確認
7	電話応対 電話によるクレームについて	講義、演習 PP	振り返り確認
8	患者さんからのクレーム応対	講義、演習 PP	振り返り確認

9	患者さんからのクレーム対応グループワーク	講義、演習 PP	振り返り確認
10	お茶の入れ方、出し方	講義、演習 PP	振り返り確認
11	実技試験練習 (患者誘導)	講義、演習 PP	振り返り確認
12	実技試験練習 (患者誘導・スプレー洗浄)	実技	振り返り確認
13	実技試験	実技試験	
14	患者誘導・スプレー洗浄		
15	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	
参考書・資料 等	魅力UPのスタッフ入門 歯科医療接遇 医学情報社 歯科スタッフのマナーと実践マニュアル 口腔保健協会 患者接遇パーフェクトレッスン
この授業科目を前提とする主な科目	実習指導Ⅱ
この授業科目から発展する主な科目	臨地・臨床実習Ⅱ
成績評価の方法	評価時期：定期レポート、実技評価 出席、授業態度、実技試験、筆記試験で総合的に判断します。
その他 受講生への要望等	医療人と必要な心構えと実践的なマナーを身につけます。毎回講義の後に演習を行っていきます。

授業科目名	栄養学		実務経験講師	○
担当者名	大出 理香		実務経験	管理栄養士
開講年度	2025 年度	学 期	前期	
年 次	2年次	授 業 回 数	8 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間	
科目の概要	私たちの体は、五大栄養素をもとに構成されている。豊かに食料が供給されている中で、その摂取状況の過不足は国民の健康とかかわっている。口腔は食物の入り口であり、栄養素と直接関係する疾患が存在する。 歯科衛生士は、口腔の健康を維持・増進する役割を担っていることをふまえ、栄養学を学ぶ。			
到達目標	1. 栄養学の必要性について説明できる。 2. 五大栄養素について説明できる。 3. 栄養素の消化吸収および働きについて概説できる。 4. 食事摂取基準について概説できる。 5. ライフステージと栄養について概説できる。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	栄養学と歯科衛生士、栄養素の種類とはたらき	講義	課題：食事調査、小テスト
2	栄養素の種類とはたらき	講義	小テスト
3	栄養素の消化・吸収	講義	小テスト
4	健康と栄養	講義	小テスト
5	食事と食品	講義	小テスト
6	ライフステージと栄養	講義	小テスト
7	栄養ケア・マネジメント	講義	小テスト
8	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	「人体の構造と機能3 栄養学」一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版会社
参考書 (参考資料等)	「消化・吸収・代謝と栄養素のすべてがわかるイラスト図鑑」メディカ出版 「年度別歯科衛生士国試試験問題集 2024 年版 第 28～32 回」医歯薬出版株式会社
この授業科目の前提とする科目	人体の構造と機能、歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み、歯科保健指導論
この授業科目から発展する主な科目	講義科目：栄養学→実習科目：歯科保健指導論
成績評価の方法	定期試験(100%) 最終成績は総合評価。
その他 受講生への要望等	きちんとノートをとること。 課題提出のルール：講義開始前に回収できるよう出席番号順に並べて準備すること。 授業のまとめとして国家試験の過去問や小テストを行う。 授業内容変更の可能性あり。

授業科目名	歯科保存学		実務経験講師	○
担当教員名	大橋 伸江		実務経験	歯科医師
開講年度	2025 年度	学 期	前期	
年 次	2 年次	授業回数	8 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間	
授業科目の概要	う蝕と歯の神経の病気の治療法の原理と処置を理解し、治療にあたっての歯科衛生士の業務内容がしっかり修得されることを目的としています。そして、その知識が歯科診療補助論、歯科予防処置論、歯科保健指導論を学ぶための基礎となります。			
授業科目の到達目標	1 歯科衛生士事業を行うために必要な歯に生じる疾患の種類、診断および治療法の基本を習得する 2 保存治療を行うために必要な材料、器具、手技等を習得する			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	歯の保存療法の種類、保存修復の概要	講義	教科書を読んでもくる
2	保存修復の概要、直接法修復	講義	教科書を読んでもくる
3	間接法修復	講義	教科書を読んでもくる
4	歯内療法の概要、歯の漂白	講義	教科書を読んでもくる
5	歯髄保存療法、歯髄の除去療法	講義	教科書を読んでもくる
6	根管治療、根管充填	講義	教科書を読んでもくる
7	外科的歯内療法、歯の外傷、安全対策	講義	教科書を読んでもくる
8	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学
参考書・資料 等	
この授業科目を前提とする主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	定期試験
その他 受講生への要望等	

授業科目名	歯周療法学		実務経験講師	○
担当教員名	石川 一磨		実務経験	歯科医師
開講年度	2025 年度	学 期	前期	
年 次	2 年次	授業回数	8 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間	
授業科目の概要	歯周病・歯周治療の全体像を学び、治療の流れを理解して歯科衛生士の役割、重要性をしっかり認識してもらうことで、歯周治療の一翼を担える優れた歯科衛生士となることを目指します。			
授業科目の到達目標	1. 歯周治療の種類を説明できる 2. 歯周疾患の診断及び治療の基本を習得する 3. 歯周疾患を説明できる			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	I 編1章 歯周治療とは 2章 歯周組織の構造と機能	講義	教科書をよく読む
2	3章 歯周病の分類と原因	講義	教科書をよく読む
3	II 編1章 歯周治療の進め方 2章 歯周病の検査	講義	教科書をよく読む
4	3章 歯周基本治療	講義	教科書をよく読む
5	4章 歯周外科治療	講義	教科書をよく読む
6	5章 歯周治療としての口腔機能回復治療	講義	教科書をよく読む
7	6章 メインテナンス	講義	教科書をよく読む
8	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 歯周病学
参考書・資料 等	
この授業科目を前提とする主な科目	予防システム論、歯周病予防法Ⅰ・Ⅱ
この授業科目から発展する主な科目	業務管理
成績評価の方法	定期試験

その他 受講生への要望等	予習復習して教科書をよく読んでほしい。
-------------------------	----------------------------

授業科目名	歯科補綴学		実務経験講師	○
担当教員名	吉浜 太		実務経験	歯科医師
開講年度	2005 年度	学 期	前期	
年 次	2 年次	授業回数	8 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間	
授業科目の概要	歯質が崩壊あるいは歯や顎が欠損した場合に、その部分をクラウン、ブリッジ、義歯やインプラントなどの人工装置で補い、機能の回復と見た目の自然観の回復をさせ、口腔機能の維持、改善について知識を習得する			
授業科目の到達目標	1.歯質欠損に対する歯冠修復と歯列の一部、あるいは全部欠損に対する咬合修復方法を習得する 2.補綴治療の種類流れを理解し臨床がスムーズに行えるように材料、器材の取り扱いを習得する			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	I 編. 補綴歯科治療に関する基礎知識 1章 歯科補綴の概要 2章 補綴歯科治療の基礎知識	講義	教科書 P4～47
2	II 編.補綴歯科治療の実際と歯科衛生士の役割 1章 補綴歯科治療における検査	講義	教科書 P50～69
3	2章 クラウンブリッジ治療	講義	教科書 P70～109
4	3章 有床義歯治療の実際	講義	教科書 P110～179
5	3章 有床義歯治療の実際	講義	教科書 P110～179
6	4章 インプラント治療 5章 特殊な口腔内装置を用いる治療	講義	教科書 P180～223
7	6章 補綴歯科治療における器材の管理 全体の復習、義歯の印象、器材などのデモ	講義	教科書 P224～230
8	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
--------	---

参考書・資料 等	
この授業科目を前提とする主な科目	口腔解剖Ⅱ
この授業科目から発展する主な科目	歯科放射線学、業務管理
成績評価の方法	定期試験 出席 授業態度など総合的に判断します。
その他 受講生への要望等	

授業科目名	口腔外科学・麻酔学		実務経験講師	○
担当教員名	土肥 豊		実務経験	歯科医師
開講年度	2025 年度	学 期	前期	
年 次	2 年次	授業回数	11 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	22 時間	
授業科目の概要	口腔外科は、ほとんどすべての基礎歯科医学、臨床歯科医学に立脚した学問です。したがって、まずこれらの基本的な知識の十分な理解と習得を目指し、その上で口腔外科としての専門知識を学びます。			
授業科目の到達目標	1. 口腔外科の基礎知識を習得する 2. 歯科医師の介助、器具の準備、滅菌消毒ができる 3. 衛生士が主体、主導となって治療を行うことができる			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	I 編[顎・口腔粘膜疾患と口腔外科] 1 章 口腔外科の概要 ①口腔外科とは ②顎・口腔領域の特徴と主な疾患	講義	教科書をよく読み、わからない語句を書き出してくる。
2	1 章 ③口腔病変と全身疾患 ④基礎疾患と歯科治療	講義	教科書を良く読み、わからない語句を書き出してくる。
3	2 章 顎・口腔領域の先天異常と発育異常 ①歯の発育異常 ②口腔軟組織の先天異常と異常 ③口唇裂・口蓋裂 ④顎の先天異常と発育異常	講義	教科書を良く読み、わからない語句を書き出してくる
4	3 章 顎・口腔領域の損傷および機能障害 8 章 顎関節疾患	講義	教科書を良く読み、わからない語句を書き出してくる。
5	4 章 口腔粘膜の病変 ①水泡形成を主徴とする疾患 ②紅斑およびびらんを主徴とする疾患 ③潰瘍を主徴とする疾患 ④白斑を主徴とする疾患 ⑤色素新着を主徴とする疾患 ⑥粘膜の萎縮を主徴とする疾患 ⑦口腔の乾燥を主徴とする疾患 ⑧粘膜の出血および貧血を主徴とする疾患 ⑨その他の異常および疾患 11 章 血液疾患	講義	教科書を良く読み、わからない語句を書き出してくる。
6	5 章 顎・口腔領域化膿性炎症疾患 ①炎症とは ②歯周組織の炎症 ③顎骨の炎症 ④顎骨周囲組織の炎症 12 章 口腔心身症	講義	教科書を良く読み、わからない語句を書き出してくる。
7	6 章 顎・口腔領域の嚢胞性疾患 ①嚢胞とは ②顎骨に発生する嚢胞 ③軟組織に発生する嚢胞	講義	教科書を良く読み、わからない語句を書き出してくる。

8	7章 顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患 ①良性腫瘍(歯源性腫瘍と非歯源性腫瘍) ②悪性腫瘍 概論	講義	教科書を良く読み、わからない語句を書き出してくる。
9	7章 顎・口腔の主要および腫瘍類似疾患 ②悪性腫瘍 口腔癌の治療 ③腫瘍類似疾患 9章 唾液腺疾患 ①唾液と唾液腺 ②炎症性唾液腺疾患 ③唾石症 ④唾液分泌異常 ⑤唾液腺腫瘍 10章 口腔領域の神経疾患 ①顎口腔の知覚神経と運動神経 ②神経痛 ③神経麻痺 ④神経痙攣	講義	教科書を良く読み、わからない語句を書き出してくる。
10	II編[口腔外科診療の実際]1章 口腔外科診療の実際 ①口腔外科治療の流れ ②診察と診断 ③清潔と不潔 ④創傷の処置 ⑤口腔外科小手術(抜歯等) ⑥止血処置 ⑦縫合処置 III編[歯科治療と歯科麻酔と患者管理] 1章 歯科治療における歯科麻酔と患者管理 ① 歯科治療における歯科麻酔の立場 ② 全身状態の評価と患者管理 2章 局所麻酔 ①局所麻酔法 ②局所麻酔薬 ③血管収縮薬 ④局所麻酔に使用する器材 ⑤局所麻酔時の局所的偶発症 3章 精神鎮静法 ①吸入鎮静法 ②静脈内鎮静法 ③精神鎮静法実施に際する一般的注意点 講義総括	講義	教科書を良く読み、わからない語句を書き出してくる。
11	定期試験		

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
参考書・資料 等	「病理学・口腔病理学」参照
この授業科目を前提とする主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	業務管理
成績評価の方法	定期試験
その他 受講生への要望等	

授業科目名	小児歯科学		実務経験講師	○
担当教員名	小池 良平		実務経験	歯科医師
開講年度	2025 年度	学 期	前期	
年 次	2 年次	授業回数	8 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間	
授業科目の概要	小児歯科は、成長発育をしている小児を対象として口腔領域の正常な発育をはかり、これを障害する異常や、疾患の予防治療を行うことにより正しい永久歯列を実施させることを目的としているため、常に発達成長を続ける小児が対象であること、母親の協力が不可欠であることより、小児歯科学に必要な対応と知識を学ぶ。			
授業科目の到達目標	1. 小児の身体的・精神的発達および総合咀嚼器官の発育とその阻害因子について説明できる 2. 各ステージにおける小児の理解と特徴的歯科疾患を説明できる 3. 歯科衛生士としての役割を習得する			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	総論 1 章 小児歯科とは 小児歯科学概論 2 章 心身の発育 3 章 小児の生理的特徴 4 章 顔面頭蓋の発育 5 章 歯の発育とその異常	講義	教科書を読んできく
2	6 章 歯列、咬合の発育と異常 7 章 小児の歯科疾患 8 章 小児虐待	講義	教科書を読んできく
3	各論 1 章 小児期の特徴と歯科的問題点 2 章 小児歯科における患者との対応法	講義	教科書を読んできく
4	2 章 小児歯科における患者との対応法 3 章 小児歯科における診療体系	講義	教科書を読んできく
5	3 章 小児歯科における診療体系 4 章 障害児の歯科治療	講義	教科書を読んできく
6	4 章 障害児の歯科治療 5 章 う蝕予防 1 章 小児の口腔健康管理	講義	教科書を読んできく
7	6 章 小児の口腔健康管理 7 章 歯科診療室と器材の管理	講義	教科書を読んできく
8	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	最新歯科衛生士教本「小児歯科」 全国歯科衛生士教育協議会　医歯薬出版
参考書・資料　等	
この授業科目を前提とする主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	定期試験
その他 受講生への要望等	

授業科目名	歯科放射線学		実務経験講師	○
担当教員名	坂本 利之		実務経験	歯科医師
開講年度	2025 年度	学 期	前期	
年 次	2 年次	授業回数	10 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	20 時間	
授業科目の概要	現在の歯科診療におけるX線検査の役割は大きく、口腔内病変の進展を診断し、治療方針を決定するためには、X線検査はかせません。 X線を理解することで、医療でなぜ放射線を有効に利用されているのかまた、どうしたら安全に利用できるのかを理解し、習得します。			
授業科目の到達目標	1. エックス線写真撮影時の補助に対応するために必要な撮影手順習得する。 2. 放射線防護の方法を習得する。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	第 1 章 放射線の基礎知識 ①歯科におけるX線写真と画像診断 ②放射線とその性質 ③放射線の人体への影響と防護	講義	予習：教科書 P1～P19 読む
2	第 2 章 X線画像の形成 ①X線と画像の形成 ②X線フィルムと増減紙 ③デジタル画像系 第 3 章 歯科におけるエックス線検査 ①口内法X線撮影 第 4 章 口内法X線撮影の実際とDHの役割 ①口内法X線撮影の準備 ②フィルムとヘッドの位置づけ	講義	予習：教科書 P20～P44、 P62～p84 読む
3	口内法X線撮影実習 実習①	実習	
4	①口内法X線撮影相互実習		
5	口内法X線撮影実習 実習② ①口内法X線撮影相互実習 第 3 章 歯科におけるエックス線検査 ②パノラマエックス線撮影 ③頭部X線規格撮影 ④その他の画像検査法 第 5 章 パノラマX線撮影の実際とDHの役割 ①パノラマX線撮影の準備	実習 講義	予習：教科書 P45～61、 P97～P105 読む

	②患者の誘導と位置づけ		
6	パノラマX線撮影 実習① ①パノラマX線撮影 相互実習	実習	
7	パノラマX線撮影 実習②	実習	
8	②パノラマX線撮影 相互実習		
9	第 6 章 写真の処理・放射線治療 ①写真の処置と画像保管 第 7 章 放射線治療と口腔管理 第 4 章 口内法X線撮影の実際とDHの役割 ⑤口内法X線撮影のみかた 第 5 章 パノラマX線撮影の実際とDHの役割 ③パノラマX線写真のみかた	講義	予習:教科書 P108～P126、 P85～P96、P106～P107 読む
10	定期試験	筆記試験	筆記試験

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 歯科放射線学 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
参考書・資料 等	
この授業科目を前提とする主な科目	口腔解剖学
この授業科目から発展する主な科目	歯科保存学・歯周療法学、業務管理
成績評価の方法	定期試験 9 割 出席状況 1 割 授業態度も加味します
その他 受講生への要望等	

授業科目名	歯科矯正学		実務経験講師	○
担当教員名	手束 俊介		実務経験	歯科医師
開講年度	2025 年度	学 期	前期	
年 次	2 年次	授業回数	8 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間	
授業科目の概要	頭部・顎・顔面の成長発育とそれに伴って変化する熾烈の変化を知り、その発育を阻害する因子を早期に取り除く事が不正咬合の予防につながることを理解します。さらに、患者に対する矯正治療患者に対する矯正治療の必要性に関する啓発の在り方、不正咬合によってもたらされる障害、矯正装置の口腔衛生に与える影響など、歯科矯正学をわかっていることがなければ解決できないことが多い。本科目は不正咬合と実際の矯正治療の関連付けができるように基礎的な知識を習得することを目的とするとともに、歯科矯正学の基礎を学び歯科矯正に関する診療補助の方法を学びます。			
授業科目の到達目標	1 不正咬合の治療意義と診断および治療法を習得する 2 歯科矯正治療における衛生士の役割について理解する			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	矯正の概論 矯正歯科学概論 矯正歯科学とは何か？ 矯正治療の歴史と必要性について 成長発育(1) 成長・発育 頭部・顎・顔面および歯・歯列の成長発育について	講義	教科書の該当する章を必ず目を通し各自授業に臨んでください。目安時間は30分です。
2	正常咬合と不正咬合(Ⅰ) 正常咬合と不正咬合、不正咬合の種類について 正常咬合と不正咬合(Ⅱ) 不正咬合の原因と予防法について	講義	教科書の該当する章を必ず目を通し各自授業に臨んでください。
3	矯正歯科診断(Ⅰ) 矯正歯科診療所に必要な検査 矯正歯科診断(Ⅱ, Ⅲ) 症例分析、非抜歯治療と抜歯治療	講義	教科書の該当する章を必ず目を通し各自授業に臨んでください。
4	矯正歯科診断(Ⅲ)矯正歯科と力 矯正歯科診療と“力”矯正力・顎・整形力・保定矯正力の種類と歯の移動様式について。 矯正装置 (Ⅱ, Ⅲ) 矯正装置の種類と用途について (可撤式矯正装置と固定式矯正装置)	講義	教科書の該当する章を必ず目を通し各自授業に臨んでください。

	機能的矯正装置・保定装置		
5	矯正治療の実際 上下顎の前後関係の不調和 上下顎の垂直的關係の不調和 成人矯正 口腔顔面の形成異常と変形、歯の埋伏と歯数異常 治療時のトラブルへの対応 保険適用の歯科治療	講義	教科書の該当する章を必ず目を通し各自授業に臨んでください。
6	矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割 矯正診断・矯正診断時の業務 矯正治療に用いられる器具について	講義	教科書の該当する章を必ず目を通し各自授業に臨んでください。
7	矯正歯科患者と口腔保健管理、口腔筋機能療法 器材、資料、文章の管理 講義のまとめ・定期試験対策	講義	教科書の該当する章を必ず目を通し各自授業に臨んでください。
8	定期試験	筆記試験	前の講義の際に連絡します。

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
参考書・資料 等	最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常2 歯科衛生 全国歯科衛生士教育協議会 監修、医歯薬出版
この授業科目を前提とする主な科目	口腔生理学・口腔病理学・小児歯科学
この授業科目から発展する主な科目	口腔外科学、業務管理
成績評価の方法	定期試験 授業態度20% 試験(筆記)80% で評価を行う。
その他 受講生への要望等	講義後の該当箇所について、教科書による復習を行うこと。

授業科目名	障害者・高齢者歯科学		実務経験講師	○
担当教員名	君嶋 充宣		実務経験	歯科医師
開講年度	2025 年度	学 期	前期	
年 次	2 年次	授業回数	8 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間	
授業科目の概要	障害者と高齢者の社会における立ち位置を理解する。その上で口腔の健康が身体にどのような影響を与えるか理解する。			
授業科目の到達目標	1. 高齢者の身体的、精神的特徴の理解と衛生士としての歯科治療上必要な対応を説明できる 2. 歯科治療におけるスペシャルニーズ(疾患、行動調整、口腔衛生管理、安全管理、リハビリなど)を説明できる			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	障害者歯科 1章 障害の概念 2章 歯科医療で特別な支援が必要な疾患	講義	レポート 「障害は個性か」
2	3章 障害者の歯科医療と行動調整 4章 健康支援と口腔衛生管理 5章 リスク評価と安全管理	講義	教科書を読んでもくる
3	6章 摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士割 7章 地域における障害者歯科 8章 障害者歯科荷をける歯科衛生過程	講義	教科書を読んでもくる
4	高齢者歯科 Ⅰ編 高齢者を取り巻く社会と環境 Ⅱ編 加齢による身体的・精神的変化と疾患	講義	教科書を読んでもくる
5	Ⅲ編 高齢者の状態把握 Ⅳ編 口腔ケア オーラルフレイルと口腔リハ	講義	教科書を読んでもくる
6	Ⅴ編 摂食嚥下リハビリテーション オーラルフレイルと口腔リハ	講義	教科書を読んでもくる
7	Ⅵ編 高齢者に関わる医療と介護 Ⅶ編 高齢者歯科における歯科衛生過程	講義	教科書を読んでもくる
8	定期テスト	講義 筆記試験	

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ「高齢者歯科学」 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
--------	---

	歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学 歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会
参考書・資料 等	
この授業科目を前提とする主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	歯科保健指導
成績評価の方法	定期試験
その他 受講生への要望等	

授業科目名	歯周病予防法Ⅱ		実務経験講師	○
担当教員名	金澤 愛		実務経験	歯科衛生士
開講年度	2025年度	学 期	通年	
年 次	2 年次	授業回数	60 回	
単 位 数	4 単位	単位時間数	120 時間	
授業科目の概要	歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術、および態度を習得することを目的とします。 歯周病予防法Ⅰで学んだ知識を踏まえ、相互実習を行うことで技術を身に着けます。			
授業科目の到達目標	1. 歯科衛生過程における各構成要素の目的を理解できる 2. 歯周病の原因と分類、進行および予防方法を説明できる 3. 歯科衛生介入に関連する検査ができる 4. シックルタイプスケーラー・キュレットタイプスケーラーを操作できる 5. シャーピングができる 6. パワースケーラーを操作できる 7. 歯面清掃・歯面研磨の意義を説明できる 8. 歯面清掃器材の種類と使用方法を説明できる 9. 導入や言葉かけなど患者対応が出来るようになる 10. 歯科衛生計画を立案し処置ができる			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	マネキン実習	講義	
2	全顎シックルスケーラーによる確認 相互実習について	実習	
3	2章 歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理 情報収集の目的	講義	小テスト
4	全身的な健康状態 口腔内の観察項目 歯科衛生介入に関連する検査方法 等		
5	相互実習	実習	実習記録
6	口腔内の観察、観察による評価歯式をとる		
7	マネキン実習	実習	実習記録
8	全顎 プロービング		
9	相互実習	実習	実習記録
10	プロービング		
11	3章 ②歯科衛生介入としての歯科予防処置 歯面研磨 目的 種類 歯面研磨剤	講義 実習	
12	① 使用器材と操作方法 ② 臨床における注意事項 ③ 注意する症例		
13	相互実習	実習	
14	下顎前歯部シックルスケーラー		実習記録

15	相互実習	実習	実習記録
16	歯面研磨 下顎前歯部		
17	キュレット型スケーラーについて	講義	
18	特徴 操作方法 グレーシーキュレット		
19	マネキン実習	実習	実習記録
20	下顎前歯部での操作 キュレットスケーラー		
21	相互実習	実習	実習記録
22	下顎前歯部での操作 キュレットスケーラー		
23	マネキン実習	実習	実習記録
24	上顎前歯部での操作 キュレットスケーラー		
25	相互実習	実習	実習記録
26	上顎前歯部での操作 キュレットスケーラー		
27	キュレット型スケーラー スケーリング確認 試験対策 まとめ		
28	実技試験		
29			
30	中間試験		
31	歯周ポケット洗浄 パワースケーラー	講義	
32	超音波スケーラーとエアスケーラー器具の準備・取扱い		
33	相互実習 半分に分けて上顎を超音波スケーラー	実習	実習記録
34	下顎をエアスケーラー		
35	相互実習 半分に分けて下顎を超音波スケーラー	実習	実習記録
36	上顎をエアスケーラー (前回と交代)		
37	相互実習 半分に分けて上顎を超音波スケーラー	実習	実習記録
38	下顎をエアスケーラー		
39	相互実習 半分に分けて下顎を超音波スケーラー	実習	実習記録
40	上顎をエアスケーラー (前回と交代)		
41	PMTC、歯面清掃器、サブソニックシステム	講義	
42	エバシシステム基礎実習	実習	
43	相互実習	実習	実習記録
44	PMTC(エバチップ)		
45	相互実習	講義	実習記録
46	歯面清掃器		
47	上顎右側臼歯部キュレットスケーラー 講義 マネキン実習	講義 実習	実習記録
48	下顎右側臼歯部キュレットスケーラー 講義 マネキン実習		
49	相互実習	実習	実習記録
50	上顎右側臼歯部 下顎右側臼歯部		

51	上顎左側臼歯部キュレットスケーラー 講義 マネキン実習	実習	実習記録
52	下顎左側臼歯部キュレットスケーラー 講義 マネキン実習		
53	相互実習 上顎左側臼歯部キュレットスケーラー	実習	実習記録
54	下顎左側臼歯部キュレットスケーラー		
55	実技試験、後期定期試験の説明 国家試験対策 歯周病予防法まとめ	講義	
56	シャープニングについて	講義	実習記録
57	シックル、グレーシーキュレットスケーラーのシャープニング	実習	
58	実技試験	実技試験	
59			
60	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論 歯科保健指導論 歯周病学
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	歯周病予防法 I 予防システム論 口腔衛生学 微生物学
この授業科目から発展する主な科目	臨地・臨床実習
成績評価の方法	評価時期:実技試験、定期試験 評価対象:筆記・実技試験、出席状況、実習態度
その他 受講生への要望等	危険を伴う相互実習を行う教科になります。マネキンでの手技の確認をしっかりと行ってから実習に臨んでください。体調を整え、実習準備を怠らないようにしましょう。実習の機会は少ないので欠席しないようにしてください。 歯周病学を理解して歯科衛生士の役割をしっかりと身に付けていきましょう。

授業科目名	う蝕予防法Ⅱ		実務経験講師	○
担当教員名	鳩山 恭子		実務経験	歯科衛生士
開講年度	2025 年度	学 期	前期	
年 次	2 年次	授業回数	15 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	う蝕予防処置は歯科衛生士の三大業務の中の一つの歯科予防処置の中であり、重要な業務であります。 う蝕発生や進行のメカニズムを理解し、歯科衛生士として人々の歯、口腔の健康の維持・増進をさせるためにう蝕予防の専門的な知識、技術を学びます。			
授業科目の到達目標	1. う蝕の原因と分類、進行および予防法を説明できる 2. フッ化物応用法を説明し、実践できる 3. フッ化物の毒性と急性中毒への対応を説明できる 4. フッ化物の急性最小中毒量・フッ素量・フッ化ナトリウム量の算出ができる 5. う蝕活動性試験を説明し、実践できる 6. う蝕活動性試験に結果基づいた予防プログラムを作成できる 7. 小窩裂溝填塞法について説明し、実践できる			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	う蝕予防法Ⅰの復習 う蝕の基礎知識 p32～p38 フッ化物応用法 p206～p236	講義	
2	3編 2章歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理 4. う蝕に関する検査(う蝕のリスク評価) p140～p152	講義	【小テスト】 フッ化物応用
3	相互実習 情報収集、口腔内観察	実習	【小テスト】 う蝕に関する検査 【課題】 実習記録 食事記録
4			
5	う蝕活動性試験 実習について ・Dentocult-SM ・Dentocult-LB ・咀嚼刺激による唾液分泌速度の測定 ・Dentobuff-Strip	講義	【課題】 実習記録

6	相互実習 ・Dentocult-SM ・Dentocult-LB ・咀嚼刺激による唾液分泌速度の測定 ・Dentobuff-Strip	実習	【課題】 実習記録
7	相互実習 ・Dentocult-SM ・Dentocult-LB ・咀嚼刺激による唾液分泌速度の測定 ・Dentobuff-Strip	実習	【課題】 実習記録
8	※前回の授業の検査結果がでてから 6. う蝕活動性の評価結果に基づく予防と治療 p152 う蝕予防プログラム作成 3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置 ③フッ化物応用 5)フッ化歯面塗布の術式 復習	講義	【課題】 実習記録
9	相互実習	実習	【課題】
10	フッ化物紙面塗布(綿球法)		実習記録
11	相互実習	実習	【課題】
12	フッ化物紙面塗布(トレイ法)		実習記録
13	5. フッ化物の毒性と急性中毒への対応 p236～p24 1)急性中毒 2)悪心・嘔吐発現フッ化物溶液量の算出法 3)慢性中毒	講義	【課題】 フッ化物の算出
14	④小窩裂溝填塞法 p236～p242 マネキン実習 小窩裂溝填塞	講義 実習	【小テスト】 小窩裂溝填塞 【課題】 実習記録
15	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 保健生態学、臨床検査
参考書・資料 等	「歯科衛生士のためのう蝕予防処置法」
この授業科目の前提と	予防システム論、口腔衛生学、公衆衛生学、保健指導論、

なる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	保存学、保健指導論
成績評価の方法	評価時期：定期試験 評価対象及び配分：試験、課題、小テスト、出欠席
その他 受講生への要望等	う蝕予防法Ⅰを復習してきてください。 う蝕予防は保健指導と関連が深いですので、教科書をよく読んで理解していきましょう。

授業科目名	保健指導論Ⅱ		実務経験講師	○
担当教員名	栗田礼子		実務経験	歯科衛生士
開講年度	2025 年度	学 期	通年	
年 次	2 年次	授業回数	60 回	
単 位 数	4 単位	単位時間数	120 時間	
授業科目の概要	健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持し、増進するためにプロフェッショナルケア・セルフケアの基本となる知識、技術および態度を修得します。			
授業科目の到達目標	1. 歯科衛生アセスメントの情報収集と情報処理ができる 2. 医療面接の技術を身に付けることができる 3. 対象者の口腔機能の評価を理解できる 4. 口腔衛生状態を評価することができる 5.全身疾患のある対象者に応じた保険指導ができる 6.喫煙者に対する支援のポイントを理解できる 7.各ライフステージの一般的特徴、口腔の特徴、望ましい歯科保健行動を説明できる 8.各ライフステージの特徴にあった保健指導を計画することができる 9. 対象者の状況を多角的に考える事ができる 10. 対象者に応じた口腔清掃法を提案することができる 11. 対象者に応じた介入ができる 12. 歯科衛生評価を行うことができる 13. 特別な配慮が必要な者への対応法がわかる 14. 災害時の歯科保健指導がわかる			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	IV編 対象別の歯科衛生介入 ④学齢期 1. 学齢期の一般的特徴 P329～P335 2. 学齢期の口腔の特徴 3. 学齢期の歯科衛生介入	講義	【課題】 教科書をよく読んでくる
2	4. 学齢期の食生活の特徴と栄養 P335～P337 5. 学齢期の食事摂取基準 6. 学齢期の食生活の把握 7. 学齢期の食生活指導	講義	【課題】 教科書をよく読んでくる
3	小学校ブラッシング指導 1. 計画 2. 担当割り振り 3. 内容検討	グループワーク	

4	媒体計画 1. アウトラインの作成 2. 必要物品の割り出し	グループワーク	
5	媒体作成① セリフの作成①	グループワーク	
6	媒体作成② セリフの作成②	グループワーク	
7	媒体作成③ セリフの作成③	グループワーク	
8	小学校ブラッシング指導リハーサル	発表	
9	Ⅲ編 歯科保健指導各論 2 章 歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理 ①患者からの情報収集 P90～P96 1. 主観的情報の把握 2. 医療面接(メディカルインタビュー)	講義	
10	2. 医療面接; 演習	講義・演習	【課題】 実習記録
11	②全身の健康状態の把握 1. 器質的・機能的問題の把握 P97～ 2. 服薬状況の把握 ★薬理教本 P63 P51～5	講義・演習	【課題】 実習記録 薬理教本持参
12	③認知機能の把握 1. 認知機能の評価方法 P98～P99 ★高齢者教本 P109～113	講義	【課題】 実習記録 高齢者教本持参
13	認知機能の把握 評価スケール・演習 P109～113	講義・演習	【課題】 実習記録
14	④生活環境と生活背景の把握 1. 社会構造、虐待への対応 P100～ ★栄養学教本 P124 2. 虐待への対応 ★小児歯科学教本 P66	講義	【課題】 確認テスト 栄養学教本 小児歯科学教本持参
15	⑤生活習慣の把握 1. 生活習慣病のリスク P101～ ★保健生態学教本 P281～ 2. 保健行動 3. 受療行動	講義	【課題】 確認テスト 保健生態学教本
16	⑥口腔の器質的問題の把握 P105～108	講義	【課題】

	1. 口腔内の観察 2. 検査項目 1) 歯 2) 歯肉 3) 舌 4) 口腔粘膜 5) 唾液		確認テスト
17	10) 口臭 P119～P122	講義	【課題】 確認テスト
18	⑦口腔機能の把握 P123～P124 1. 観察による評価	講義 実習	【課題】 術式の確認
19	1. 観察による評価 実習	実習	【課題】 実習記録
20	2. 口腔機能の評価 P124～P125 ★高齢者教本 P207 ★障害者教本 P117	講義	【課題】 高齢者歯科学教本持参 障害者歯科学教本持参
21	2. 口腔の機能の評価 実習 P124～P125	実習	【課題】 実習記録
22	⑧分析のためのデータ 1. 指標 P126～	講義 演習	【課題】 演習記録
23	1. 指標 1) 口腔衛生状態の指数 (1) O'LearyのPCR	実習	【課題】 実習記録
24	1. 指標 1) 口腔衛生状態の指数 (2) OHI (3) OHI-S (4) PLI (5) PHP	講義	【課題】 O'LearyのPCRの復 習テスト
24	1) 口腔衛生状態の指数 咀嚼機能評価 嚥下機能評価 口腔評価の検査 舌圧の評価 運動機能の評価 P153～155	実習	【課題】 実習記録
25	4章 歯科衛生介入としての歯科保健指導 ②口腔機能管理に関わる指導 1. 口腔機能の発達に関連する指導 P266～	講義	【課題】
26	2. 口腔機能の低下に関連する指導 P267～	講義	【課題】
27	口腔機能の低下に関連する指導① 口腔衛生状態 口腔乾燥 咬合力・咀嚼機能 口唇の筋力・運動機能を改善するための指導 P267～P270	講義	【課題】
28	口腔機能の低下に関連する指導② 口腔衛生状態 口腔乾燥 咬合力・咀嚼機能 口唇の筋力・運動機能を改善するための指導 P267～P270	演習	【課題】 確認テスト
29	前期まとめ	講義	【課題】 確認テスト
30	前期定期試験	定期試験	

31	～後期～ ㊦ 生活習慣の指導 P270～P274 1. 非感染性疾患(NCDs) 2. 口腔の健康状態と全身的な健康状態の関連	講義	【課題】 確認テスト
32	3. 喫煙者に対する指導 P274～P276	演習	【課題】 確認テスト
33	3. 喫煙者に対する指導 4) アセスメント 禁煙ステージのアセスメント 禁煙支援のサポート 禁煙支援の取り組み P278, 279	講義	【課題】 確認テスト
34	喫煙者に対する指導㊦ アセスメント 禁煙ステージのアセスメント 禁煙支援のサポート 禁煙支援の取り組み P293～297	講義・演習	【課題】 実習記録
35	ストレスマネジメント 認知的評価・対処能力 問題・情動焦点コーピング P299～301	演習	【課題】 確認テスト
36	IV編 対象別の歯科衛生介入 P302～P307 1 章 ライフステージに対応した歯科衛生介入 ㊦ 妊産婦期 ① ★母子健康手帳 セルフケアの目標	講義	【課題】 確認テスト 母子健康持参
37	㊦ 妊産婦期 ② P307～P311 ★栄養学教本 P171～		栄養学教本持参
38	㊦ 乳児期 P312～P314 1. 乳児期の一般的特徴 2. 乳児期の口腔の特徴 3. にゅじきの歯科衛生介入		
39	4. 乳児期の栄養摂取 P314～P318 5. 乳児期の食事摂取基準	講義	【課題】 確認テスト
40	6. 乳児期の食生活指導 P318～P321	講義	【課題】 確認テスト
41	40 回の復習 ㊦ 幼児期 P321～P322 1. 幼児期の一般的特徴 2. 幼児期の口腔の特徴 3. 幼児期の歯科衛生介入①	講義	【課題】 確認テスト
42	3. 幼児期の歯科衛生介入② 4. 幼児期の食生活の特徴と栄養	講義	【課題】 確認テスト

	5. 幼児期の食事摂取基準 ～P329		
43	⑤ 思春期・青年期 1. 思春期・青年期の一般的特徴 P337～P344 ～ 7. 思春期・青年期の食生活指導 ★栄養学教本 P171～183	講義	【課題】 確認テスト 栄養学教本持参
44	⑥ 成人期① 1. 成人期の一般的特徴 ～ 6. 成人期の食生活の把握と指導 ★栄養学教本 P171～183		【課題】 確認テスト 栄養学教本持参
45	⑥ 成人期② P350～P354 7. 生活習慣病の食事療法と歯科保健指導のポイント		【課題】 確認テスト
46	⑦ 高齢期① P354～P359 1. 高齢期の一般的特徴 ★高齢者学教本 3. 高齢者の歯科衛生介入		高齢者学教本持参
47	⑦ 高齢者② P359～P362 4. 高齢期の食生活の特徴と栄養 ★栄養学教本 P171～183 6. 高齢者の食事摂取基準		
48	⑦ 高齢者② P362～P368 7. 高齢者の食生活の把握 8. 高齢者の食生活指導 ★高齢者学教本		【課題】 確認テスト 高齢者学教本持参
49	2章 配慮を要する者への歯科衛生介入 ①要介護高齢者 P373～P377 1. 要介護高齢者の一般的特徴 ～ 3. 要介護高齢者の歯科保健指導		高齢者学教本持参
50	4. 要介護高齢者の食生活の特徴と栄養 P377～P381 ★栄養学教本 P96		栄養学教本持参
51	② 障害児者 P381～P383 1. 障害児者の一般的特徴 ～ 2. 障害児者の口腔の特徴 ★障害児者教本		障害児者教本持参

52	3. 障害児者の歯科衛生介入 P383～P385 ★障害児者教本		障害児者教本持参
53	4. 障害児者の食生活の特徴と栄養 P386～P389 5. 摂食嚥下障害児者の食生活指導		【課題】 確認テスト
54	媒体計画 1. アウトラインの作成 2. 必要物品の割り出し		
55	媒体作成① セリフの作成①		
56	媒体作成② セリフの作成②		
57	③ 大規模災害被災者支援 P389～P396 1. 災害と非難施設 ～ 4. 災害時の多職種連携について	講義	【課題】 確認テスト
58	V編 地域保健活動における健康教育 P400～P407 1章 地域歯科保健活動における健康教育	講義	【課題】 確認テスト
59	2章 地域歯科保健活動のフィールド P408～P425 後期まとめ	講義	【課題】 確認テスト
60	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	最新歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 最新歯科衛生学シリーズ「保健生態学 第3版」 最新歯科衛生学シリーズ「栄養学」 最新歯科衛生学シリーズ「高齢者歯科学」 最新歯科衛生学シリーズ「障害者歯科学」
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	保健指導論Ⅰ
この授業科目から発展する主な科目	公衆衛生学 小児歯科学 高齢者・障害者歯科学 口腔外科学・麻酔学
成績評価の方法	定期試験(80点) 課題提出・課題評価(20点) 授業態度、出欠席(減点評価)
その他 受講生への要望等	教科書をよく読み、理解を深めましょう

授業科目名	歯科診療補助法Ⅱ		実務経験講師	○
担当教員名	大野 久美		実務経験	歯科衛生士
開講年度	2025年度	学 期	通年	
年 次	2 年次	授業回数	60 回	
単 位 数	4 単位	単位時間数	120 時間	
授業科目の概要	さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する基礎的知識、技術および態度を修得します。			
授業科目の到達目標	1. 歯科診療補助における歯科衛生士の役割を理解している 2. 診療前の準備を行うことができる 3. X線写真撮影の準備、補助ができる 4. 口腔内写真撮影の方法がわかる 5. 材料の特徴を理解し、印象採得、石膏模型の作製、仮封材の取扱いができる 6. ラバーダム防湿ができる 7. 各診療時の治療手順が説明できる、 8. 各種治療時の準備ができる。 9. 器具、器材の種類と用途を説明できる 10. 治療前後の患者説明ができる			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	授業の概要について 実験室・実習室・準備室の使用方法 診療前の準備 (オートクレーブ使用方法・清掃方法、消毒液も作り方) 衛生材料について (綿栓、綿球、ガーゼ、アルコールワッテ)	講義 実習 実験室	【課題】 ・実習記録 次回の器具テストの配布
2	ユニット清拭 器具器材の受け渡し(ペア) ・患者誘導・ライティング ・セメント練和復習 ・バキューム操作 復習	講義 実習 実習室	【課題】 ・実習記録
3	講義 フォーハンデッドデンティストリー バキューム操作、ライティングの基本 ①バキューム ②ライティング	講義 実習 実習室	・実習記録 器具テスト
4	相互実習 フォーハンデッドデンティストリー バキューム操作、ライティングの基本 ①バキューム ②ライティング手用現像X線の準備・片付け(P90～91)	講義 実習 実習室	・実習記録 器具テスト
5	顎模型実習 印象採得について 印象材の種類、特徴 ①アルジネート印象材 ②シリコーン印象材(パテ+インジクション) 寒天アルジネート印象採得模型実習	講義 実習 実験室	【課題】 ・実習記録 器具テスト
6	相互実習 寒天アルジネート印象採得 片顎 印象採得	講義 実習 実験室 実習室	【課題】 ・実習記録 器具テスト
7 8	診査法 直接修復について ①コンボジットレジン修復 ②グラスアイオノマー修復 Black の窩洞	講義 実習 実験室	【課題】 ・実習記録 器具テスト 保存学教科書

	直接修復の治療の手順、使用器材 コンポジットレジン修復、グラスアイオノマーセメント修		
9 10	エックス線写真の見方 X線の準備・片付け(P90～91) ①自動現像機のお手入れ ②自動現像機の取扱い ③デンタルX線フィルムの現像	実習 実習室	【課題】 ・実習記録 器具テスト 歯科放射線学 教科書
11 12	歯間分離法、隔壁法に用いる器具の操作 ①セパレーター ②ウェッジ ③マトリックスバンド	講義 実習 実験室	【課題】 ・実習記録 器具テスト 保存学 教科書
13 14	間接修復について 間接修復の手順、使用器材 歯肉圧排 マネキン実習	講義 実習・演習 実験室	【課題】 ・実習記録 器具テスト 顎模型
15 16	相互実習 全顎の印象採得、咬合採得 石膏の種類、特徴(P214～219) ① 石膏の取扱い ② 石膏の練和方法 石膏注入模型実習(普通石膏、硬石膏、超硬石膏)石膏注入	実習室 実習・演習 実験室	【課題】 ・実習記録 器具テスト 顎模型
17 18	石膏のトリミング(P220) 石膏枠づけ模型製作 スタディモデル作製 石膏トラップ片付け	講義 実習 実験室	【課題】 ・実習記録 器具テスト
19	石膏枠づけ模型製作 スタディモデル作製 石膏トラップ片付け	講義 実習 実習室	【課題】 ・実習記録
20 21	咬合採得について(補綴 P88,89) ワックスの種類と用途 ①ワックス ②シリコーン 仮封材の基礎知識(P240～250) 講義 テンポラリーストッピング、セメント系仮封材 水硬性仮封、仮封用軟質レジン サンダラックバーニッシュ	講義 実習 実験室	【課題】 ・実習記録
22	仮封材 マネキン実習 テンポラリーストッピング、セメント系仮封材 水硬性仮封、仮封用軟質レジン サンダラックバーニッシュ	実習 実験室	【課題】 ・実習記録 器具テスト
23 24	ラバーダム防湿の基礎知識(P99～105) 器具の名称と用途 模型実習	講義 実習 実験室・実習室	【課題】 ・実習記録 器具テスト
25 26	相互実習 ラバーダム防湿	実験室 実習室	【課題】 完全攻略本 (待機中の学生)
27 28	実技試験 ①ラバーダム防湿(模型) ②仮封材	実技試験 実験室	【課題】 ・実習記録 器具テスト
29	前期振り返り 前期まとめ	講義 教室	
30	中間試験 試験前質疑応答 30 分 筆記試験 60 分	筆記試験	

31 32	歯髄炎の分類、診査法 歯髄保存療法と歯髄除去療法	講義 実習 実験室	【課題】 ・実習記録 器具テスト
33 34	歯髄処置時の診療補助 抜髄・根充の手順、使用器材 器具の受け渡し実技 根充用ピンセット、スプレッター	講義 実習 実験室	【課題】 ・実習記録 器具テスト
35 36	補綴治療の診療補助 補綴物の種類 歯肉圧排法に用いる器具の操作 クランプ、歯肉圧排糸、外科的排除法	講義 実習 実験室	【課題】 ・実習記録 器具テスト
37 38	義歯製作の手順、使用器材 義歯修理、リベース 使用器材について	講義 実習 実験室	【課題】 ・実習記録 器具テスト
39 40	口腔外科治療 歯周外科治療 インプラントの診療補助 抜歯、難抜歯の手順、使用器材	講義 実習	【課題】 ・実習記録 器具テスト
41 42	外科器具の取扱い 縫合針、注射器の取扱い 歯周パットの取り扱い 矯正治療の診療補助 ①バンド合着 ②ダイレクトボンディング ③バンドの撤去	講義 実験室 実習	【課題】 ・実習記録 器具テスト
43 44	小児歯科治療の診療補助 対応方法 乳歯冠、クラウンフォームを使用した乳歯冠修復手順、 使用器材	講義 実習 実験室	【課題】 ・実習記録 器具テスト
45 46	ブリーチング法の診療補助 ① ウォーキングブリーチ ② オフィスブリーチ ③ ホームブリーチ 口腔内写真撮影について(P92～95) カメラの使い方 口腔内写真撮影のデモ	講義 実習 実習室	【課題】 ・実習記録
47 48	相互実習 口腔内写真撮影 5枚法撮影	実験室 実習室	【課題】 ・完全攻略本 (待機中の学生)
49 50	相互実習 口腔内写真撮影 5枚法撮影	実験室 実習室	【課題】 ・実習記録
51 52	暫間被覆冠の製作 ① 既成冠 ② 直接法	講義・演習 実験室	【課題】 ・実習記録 器具テスト
53 54 55 56	オスキー試験 歯内療法、歯周外科、補綴、口腔外科の診療の流れ 器具の受け渡し	講義・演習 実習 実験室 実習室	【課題】 ・実習記録
57 58	全身疾患とその対応法 口腔機能管理 周術期	講義	
59	訪問歯科診療 歯科診療補助まとめ・質疑応答	講義	
60	定期試験 ・質疑応答 30分 ・筆記試験 60分	筆記試験	

使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 歯科衛生学シリーズ 歯科機器 歯科衛生学シリーズ 歯科材料 歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学 歯科衛生学シリーズ 歯科放射線学 歯科衛生学シリーズ 歯科保存学 歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学 歯科衛生学シリーズ 歯科小児学 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版株式会社
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	実習科目：歯科保健指導論、歯周病予防法、う蝕予防法 講義科目：歯科衛生士概論
この授業科目から発展する主な科目	実習科目：歯科保健指導論、歯周病予防法、う蝕予防法 講義科目：救急蘇生法、臨床検査法
成績評価の方法	筆記試験(40点)、実技試験(40点)、小テスト・課題(20点) 欠席状況、授業態度(減点評価)
その他 受講生への要望等	課題は提出期限を厳守する事(過ぎた場合は減点)。 実習をやむを得ず欠席した場合、申し出があった場合補講を行います。

授業科目名	業務管理		実務経験講師	○
担当教員名	青木美日		実務経験	歯科衛生士
開講年度	2025 年度	学 期	後期	
年 次	2 年次	授業回数	8 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間	
授業科目の概要	歯科医療受診の流れや保険診療の仕組みを理解し、診療や受付業務をスムーズに進めることができる能力を育成する。			
授業科目の到達目標	1. 歯科診療の基礎知識を把握する 2. 歯科医療受診の流れを理解する 3. 保険の仕組みがわかる 4. 歯科の略語がわかる 5. カルテから治療の流れを読み取ることができる			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	歯科医療受診の流れ 保険制度の概要、保険請求の仕組み	講義	課題プリント
2	歯の基礎知識、略語 1 号カルテの読み書き、レセプト記入、略称	講義	課題プリント 小テスト
3	診療の流れとカルテのルール (初期う蝕、歯髄炎の治療の流れ)	講義	課題プリント 小テスト(略語)
4	診療の流れとカルテのルール (抜髄、根管治療、根管充填)	講義	課題プリント 小テスト(略語)
5	診療の流れとカルテのルール (歯周治療の流れ)	講義	課題プリント 小テスト(略語)
6	診療の流れとカルテのルール (補綴物の治療の流れ)	講義	課題プリント 小テスト(略語)
7	診療の流れとカルテのルール、総まとめ (義歯の治療の流れ)	講義	課題プリント 小テスト(略語)
8	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	
参考書・資料 等	事例で学ぶ 歯科レセプト 作成と点検
この授業科目の前提となる主な科目	歯周病予防法Ⅰ、歯周病予防法Ⅱ、歯科診療補助法Ⅱ、歯科保存学、歯周療法学、歯科補綴学、口腔外科学・麻酔学、歯科放射線学、小児歯科学、歯科医療接遇
この授業科目から発展する主な科目	衛生行政福祉論

成績評価の方法	定期試験(90点) 小テスト、提出物、授業態度(10点)
その他 受講生への要望等	受付だけではなく、スムーズに診療を進めていくために必要な科目になります。 小テストを行いますのでしっかり勉強をしましょう。

授業科目名	実習指導Ⅱ		実務経験講師	○
担当教員名	大野 久美		実務経験	歯科衛生士
開講年度	2025年度	学 期	通年	
年 次	2 年次	授業回数	23 回	
単 位 数	2 単位	単位時間数	45 時間	
授業科目の概要	臨地・臨床の現場における歯科衛生士の役割を学び、医療人としてふさわしい態度を学びます。スムーズに実習に取り組むことが出来るよう実習目的を理解し、事前学習を行います。			
授業科目の到達目標	1. 臨地・臨床の現場における歯科衛生士の役割を理解できる 2. 医療従事者としてふさわしい対応ができる 3. 歯科診療の流れを理解できる 4. 偶発時の対応を理解できる 5. 乳幼児期、学齢期の心身の特徴を理解できる 6. 乳幼児への歯科衛生指導の内容がわかる 7. 児童への歯科衛生指導の内容がわかる 8. 高齢者への歯科衛生指導の内容がわかる 9. 他職種の職務を理解できる 10. 医療従事者としてふさわしい対応ができる			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	臨地・臨床実習Ⅱの概要 単位、評価項目、日程の説明・手引きの確認 P7 まで	講義	実習の手引き
2	実習の手引き P8～ オスキー確認実習 直接修復	実習	実習の手引き 診療補助教科書 保存学教科書
3	オスキー確認実習 間接修復	実習	実習の手引き 診療補助教科書 保存学教科書
4	オスキー確認実習 歯髄処置	実習	実習の手引き 診療補助教科書 保存学教科書
5	相互実習 バキューム操作 器具受け渡し、フォーハンデッドデンティストリー、ライティング	実習	診療補助教科書
6	オスキー確認実習 補綴処置	演習	診療補助教科書 歯科補綴学教科書
7	オスキー確認実習	演習	診療補助教科書

	口腔外科治療時の診療補助 麻酔器具セッティング 針、糸、持針器セッティング		口腔外科学教科書
8	確認テスト 直接修復 間接修復 歯髄処置 補綴処置 口腔外科	確認テスト	
9	オリエンテーション内容 身だしなみチェック 誓約書の記入	実習	身だしなみ スーツ、パンプス 印鑑
10	矯正歯科実習について 日誌、出欠表、評価表、誓約書の記入について 訪問歯科実習について 日誌、出欠表、評価表、誓約書の記入について	講義	
11	オスキー試験 演習 暫間被覆冠について	実習	診療補助教科書 歯科補綴学教科書
12	相互実習 放射線セッティング(パントモ・デンタル)	実習	診療補助教科書 放射線学教科書
13	シリコン印象採得 バキューム操作 マネキン実習 セメント練和 演習	実習	診療補助教科書 機器教科書 材料教科書
14 15	相互実習 PMTC、ポリッシング、プラークチャート記入 演習 バキューム、ライティング、受け渡し	実習	
16 17	相互実習 全顎印象採得 石膏注入、トリミング、スタディモデル作製 日誌・考察の書き方	実習	
18 19	相互実習 バキューム操作、基本操作、器具受け渡し、患者導入	実習	
20	臨床実習事前指導 実習の手引き ・実習日程、目標等の確認 ・実習施設への連絡臨床実習事前指導 ・配布物(マスク・グローブ・出欠表・日誌・評価表)	実習	実習の手引き
21	臨床実習事前指導 実習の手引き ・日誌、出欠表、評価表の書き方	実習	実習の手引き
22	臨地実習 ブラッシング指導振り返り 大谷中生徒へコメント記入	講義	
23	臨床実習 歯科医院実習 振り返り	講義	

	歯科医院振り返りシート 城東小ブラッシング指導振り返りシート		
--	-----------------------------------	--	--

使用テキスト	実習の手引き
参考書・資料 等	診療補助教科書 歯科放射線学教科書 口腔外科学教科書 歯科保存学教科書 歯科補綴学教科書 矯正学教科書 高齢者歯科学教科書 ポケットマニュアル
この授業科目の前提となる主な科目	全ての科目
この授業科目から発展する主な科目	全ての科目
成績評価の方法	課題、小テスト、授業態度、出欠席、実習日誌
その他 受講生への要望等	臨地・臨床実習を安全に、そしてより学びの深い物とするために欠席のないようにしましょう。

授業科目名	臨地・臨床実習Ⅱ		実務経験講師	○
担当教員名	大野 久美		実務経験	歯科衛生士
開講年度	2025 年度	学 期	後期	
年 次	2 年次	授業回数		
単 位 数	5 単位	単位時間数	225 時間	
授業科目の概要	学内で学んだ知識・技術・態度をもとに、歯科医療現場で実践実習を行います。 様々な歯科医療現場での歯科衛生士の役割を認識し、責務を自覚した行動がとれる能力を養うための実習です。			
授業科目の到達目標	1.歯科衛生士の活躍の場を知る 2.矯正歯科医院での歯科衛生士の役割を知る 3.訪問歯科での歯科衛生士の役割を知る 4.乳幼児の発達を理解できる 5.乳幼児への歯科衛生指導ができる 6.学齢期の児童への歯科衛生指導ができる 7.歯科診療所での診療の流れを理解できる 8.歯科診療所でスムーズな診療のための役割が理解できる 9.歯科診療時に必要な準備や片付けができる 10.歯科診療時に必要な器具の受け渡しができる 11.安全に考慮した対応が出来る 12.清潔、不潔の理解をし、それに応じた対応が出来る			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	歯科医院実習(臨床実習)	7 時間×27 日(189 時間) 8 時間×1 日(8 時間)	臨地・臨床実習日誌 実習課題、振り返り
2	矯正歯科医院実習(臨床実習)	6 時間×1 日(6 時間)	臨地・臨床実習日誌 実習後振り返り
3	訪問歯科医院実習(臨床実習)	8 時間×1 日(8 時間)	臨地・臨床実習日誌 実習後振り返り
4	大谷中学校ブラッシング教室	7 時間×1 日(7 時間)	臨地・臨床実習日誌 実習後振り返り
5	城東小学校ブラッシング教室	7 時間×1 日(7 時間)	臨地・臨床実習日誌 実習後振り返り

使用テキスト	新人歯科衛生士・デンタルスタッフ ポケットマニュアル 医歯薬出版株式会社
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	臨地・臨床実習Ⅰ

この授業科目から発展 する主な科目	
成績評価の方法	実習先担当者の評価(50%)、実習日誌・欠席・遅刻(50%)
その他 受講生への要望等	校外実習のため、指導者の指示に従い実習を行うことになります。 学生としての謙虚さと、歯科衛生士としての現場に出るという意識をもって臨んでください。

授業科目名	特別活動Ⅱ		実務経験講師	○
担当教員名	大野 久美		実務経験	歯科衛生士
開講年度	2025 年度	学 期	前期	
年 次	2 年次	授業回数	8 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間	
授業科目の概要	行事を通じて職業人としての心構えを育み、協調性を身に着けます。			
授業科目の到達目標	1. 職業人としての常識が理解出来る 2. 式典への出席を通して礼儀作法を身に着ける 3. 歯科衛生士を目指すモチベーションを高める			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	入学式	式典	礼法を身につける
2	IPE 中間期演習授業	演習	
3	スポーツ大会	演習	
4	決意式 リハーサル	演習	
5	決意式	式典	
6	ホワイトニング実習(講義・相互実習)	演習	
7	クラス行事	演習	
8	卒業式	式典	

使用テキスト	
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	実習指導Ⅱ
成績評価の方法	出席、身だしなみ、態度など総合的に判断します。
その他 受講生への要望等	